

株式会社ジェイコム東京 多摩局
放送番組審議会 議事録

令和4年（2021年度）株式会社ジェイコム東京 多摩局 放送番組審議会は、2022年3月23日、株式会社ジェイコム東京 多摩局（立川市栄町）で開催された。

〈放送番組審議会委員〉

委員総数 6名

ご出席 5名

水野 宏一 様

都築 諒 様

桂 耕史 様

波多野 克典 様

續谷 信代 様

ご欠席 1名

小町 邦彦 様

J:COM 側から、J:COM チャンネル（10Ch）とJ:COM テレビ（11Ch）について報告があった。

【質疑応答・意見交換】

■ 審議前に確認

会長）

審議の前にJ:COM チャンネル（10Ch）とJ:COM テレビ（11Ch）の違いについて今一度確認したい。

事業者）

J:COM テレビ（10Ch）は「地域発、全国各地へ」。地域の魅力を全国 J:COM エリアに発信する番組。J:COM チャンネル（11Ch）は「ど・ローカル番組」。地域のための地域の方に向けた番組構成になっている。

■ 「ふくあじ」「つながる News」について

委員）

「ふくあじ」「つながる News」など、ニュースソースの取り方やお店を選定するプロセス、基準はあるのか。

事業者)

「ふくあじ」は地域からお店を推薦し、その中から「食べたあと、満腹になる」「食べたあと、おふくろの味を思い出す」「食べたあと、幸福感に包まれる」の番組コンセプトにあったお店を選出している。

「つながる News」は地域の皆様から情報をいただき情報選定している。

委員)

お店や人の選定にあたり、例えば商工会議所から選定になると、選定基準が明確でないと公平性の面から内部で摩擦が生じることもあるため、選定がしづらい。

委員)

「人」「店」「情報」について、選定基準を明確化してほしい。

事業者)

公平性とニーズのバランスを考慮し、基準を明確化していくよう検討する。

■「ジモトに乾杯！居酒屋秀ちゃん」について

委員)

MC 中山秀征さんの話しの引き出し方が上手く、さすがプロの方である。「居酒屋」と名が付き乾杯をするのだからもっと面白いトークが展開されても良いと思う。(居酒屋だからこそ) 出演者の砕けた、普段とのギャップを感じる番組になると良い。

事業者)

トーク番組であるとともに、異なる地域からゲストが参加されているため、ビジネスマッチングの要素も含んでいる。ゲスト同士の今後につながる関係構築にもお役立ていただければと思っている。

委員)

居酒屋でのトーク番組というより対談の印象が強く MC の良さが生かしきれていないような印象だ。

「出演者の今後につながる関係」は視聴者（視聴地域の方々）にとっては伝わりにくいのではないか。

ゲストは地元で頑張っている方（町の電気屋さん、個人店など）を応援する選出方法がよいのではないか。

事業者)

2022 年 1 月開始と番組自体が成長途中であること、併せて著名な MC を起用した番組であるため、いただいた意見を生かし J:COM の目玉番組へと育てていきたい。

■遠隔手法を使った番組について

委員)

コロナ禍や緊急事態宣言を受けての番組制作ということもあり、ZOOM などを使用した遠隔手法を取り入れた放送をされていた。今後も続くだろうコロナの状況で、遠隔手法を取り入れる基準などは定めているのか。

事業者)

明確な基準は定めていない。以前はスタジオにお呼びしお話しを伺っていた。遠隔手法はコロナ禍で導入したものである。人と人の直接接触を避ける期間が長かったこともあり、遠隔手法が定着しつつある。今後はスタジオ出演と遠隔手法の両方の良さを生かし番組制作を進めていきたい。

■地域の経済情報について

委員)

三多摩地区の特徴でもあるが、隣の市町村がどのような経済状況でどのような取り組みをしているのか把握できていない。地域のビジネスに役立つ情報を流してほしい。まちの経済状況は継続することで価値が出てくるものではないか。

委員)

異なるビジネス業態の情報、各市商工会のインタビューなどを取り入れると、視聴している事業者の気づきになるのではないか。

事業者)

「地域の情報発信」ということでは「つながる News」に集約している。「つながる News」は地元の情報（コロナ、買い物・グルメ、健康、まちづくり、企業・しごと、おでかけ・スポーツ、子ども・教育）を多岐に渡ってお届けしている。経済情報はこの番組で取り上げている。また「つながる News」は多摩局と八王子・日野局のエリアを合わせて放送しているため、周辺地域の情報も網羅されている。

■テレビ過渡期対策について

委員)

テレビ過渡期の現在、視聴世帯数を増やす企業努力が必要であると思う。有益な情報を放送しているということを知らせる手法、いかに見てもらうかを工夫する必要があるのでは。

そのためにも、更なるプロモーションの強化、コンテンツの訴求、地域の方に協力を得る必要があると思う。

委員)

年齢が若い人のテレビ視聴が（時間）固定されておらず、好きな時間に視聴している。「ど・ろーかる」アプリのアーカイブ期間を長くすることはできないのか。

事業者)

視聴してもらう努力は継続して行ってきたい。アーカイブ期間に関しては、出演者の肖像権問題とサーバー本体負荷が問題となる。状況を見て検討をしていきたい。

■新番組提案

委員)

武蔵村山市は鉄道路線が無い。しかしバス路線が発達している。その分特徴的なバス停がある。そのよ
うなことを取り上げバス路線の旅番組を作ってほしい。

委員)

同様に、J:COM のスケールメリットを生かし多摩局エリアを越えた近隣を巡り知ってもらうバス旅番組を
作ってほしい。

事業者)

ご意見承り、検討していく。

■地域発展貢献について

委員)

高齢者と若い人をマッチングさせ、空き家対策、ガーデニング対応など地域の力になっている。お金が無く
ても有益な地元情報を持っており、それを広く知ってもらう救済方法を検討してほしい。

委員)

地域活性化の方法を事業者が分かっていない。それをうまく引き出す方法を J:COM が繋げてほしい。

事業者)

番組を制作するには、制作費用を負担いただけるスポンサーが必要であることも理解してほしい。番組作
りに協力してくれる企業は J:COM でも努力する。

以上